

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 23 号

第 23 週 (6 月 5 日 ~ 6 月 11 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 6 月 16 日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3050 FAX 077-537-5548

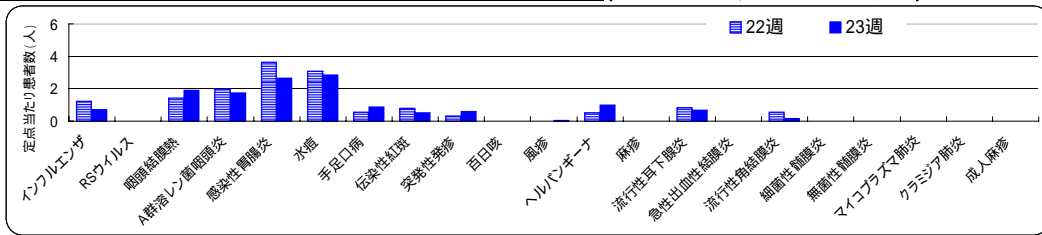
今週の感染症発生動向

腸管出血性大腸菌感染症の発生に注意！
咽頭結膜熱(プール熱)の発生は草津保健所管内で急増
手足口病の発生は長浜保健所管内で急増

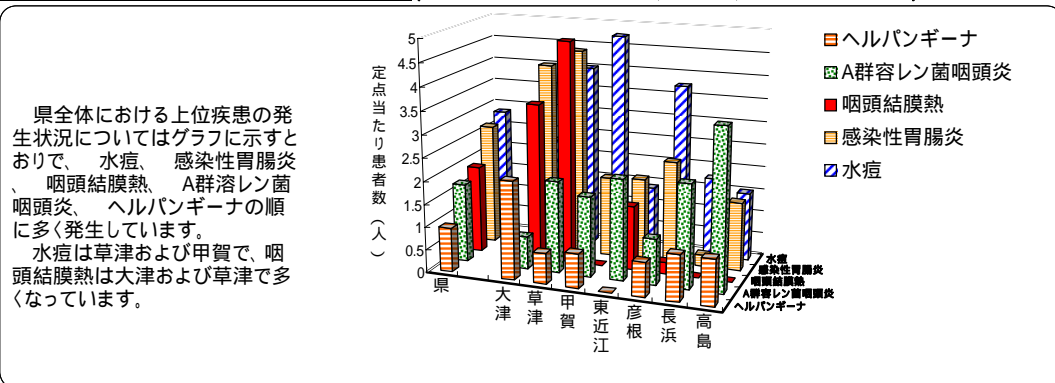
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(5月29日～6月4日)の報告数より少なくなっています。増加した疾患は咽頭結膜熱、手足口病、突発性発しんおよびヘルパンギーナです。特に、草津保健所管内では咽頭結膜熱による学級閉鎖の発生があり、今後の発生動向に十分な注意が必要です。また、減少した疾患はインフルエンザ、伝染性紅斑等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。インフルエンザについては、先週、県内の小学校でインフルエンザによる学級閉鎖の発生があり、採取されたうがい液からインフルエンザウイルスB型が分離されました。

全数把握対象疾患では、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症1名、四類感染症のレジオネラ症1名および五類感染症の後天性免疫不全症候群1名、アメーバ赤痢1名およびジアルジア症1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第23週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、水痘、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎、ヘルパンギーナの順に多く発生しています。水痘は草津および甲賀で、咽頭結膜熱は大津および草津で多くなっています。

腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26等)の予防について

滋賀県における発生状況は平成18年第23週現在6名の届出があり、昨年の同時期(届出者数0名)より非常に多くなっています。今後も引き続き発生予防に対する注意が必要です。

<発生予防に対する注意>

- 1. 十分な手洗いをする** 排便後、食事の前、下痢をしている子供や高齢者の排泄物の世話をした後には、せっけんを使い流水で十分に手を洗う。
- 2. 調理時の注意**
 - 1) 食材などは、流水で十分に洗う。
 - 2) 加熱調理時は、食品の中心温度が75℃、1分以上となるよう十分に加熱する。
 - 3) 調理した食品は、なるべく早く食べる。
 - 4) まな板、包丁などの調理器具は、漂白剤や熱湯で消毒し清潔にしておく。
- 3. 家族内の2次感染を防ぐ** 家族内に下痢などの症状を示す人がいる時は、
 - 1) 便を処理した後の手洗いを十分にする。
 - 2) 入浴時の混浴を避ける。
 - 3) トイレや入浴時のタオルの共用を避ける。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (23週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (23週)	全国 (23週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 2	191	^{(*)3} 7	556
	腸チフス	0	0	40	0	50
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	6	558	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	0	33	0	40
	A型肝炎	0	1	192	1	168
	オウム病	0	0	9	1	34
	デング熱	0	0	17	1	73
	マラリア	0	0	20	0	66
	レジオネラ症	1	5	157	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	1	4	287	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	97	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	76	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	57	0	60
	後天性免疫不全症候群	1	6	505	7	1,161
	ジアルジア症	1	1	34	0	81
	梅毒	0	2	250	0	555
	破傷風	0	0	32	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	32	2	65
	急性脳炎	0	1	85	2	180

- *1:平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。
 *2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。
 *3:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第23週(6/5～6/11) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: マラリア 2例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 25例
二類感染症: 細菌性赤痢 6例	レジオネラ症 6例	クロイツフェルト・ヤコブ病 1例
コレラ 2例	つつが虫病 15例	劇症型溶血性
腸チフス 1例	日本紅斑熱 2例	レンサ球菌感染症 2例
三類感染症: 腸管出血性	コクシジオイデス 1例	破傷風 1例
大腸菌感染症 69例	五類感染症: アメーバ赤痢 8例	梅毒 6例
四類感染症: A型肝炎 2例	ジアルジア症 1例	ウイルス性肝炎 1例

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.0となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第18週～23週、5/1～6/11)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)						
	18週	19週	20週	21週	22週	23週	週
	(5/1～)	(5/8～)	(5/15～)	(5/22～)	(5/29～)	(6/5～)	19 20 21 22 23
インフルエンザ	1.37	0.53	0.69	0.94	1.21	0.71	
RSウイルス感染症	0	0	0.03	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.75	0.75	1.09	1.84	1.44	1.91	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.63	0.53	1.47	1.44	1.97	1.72	
感染性胃腸炎	4.06	4.22	4.28	4.03	3.63	2.66	
水痘	1.88	2.34	1.66	1.81	3.09	2.84	
手足口病	0.06	0.44	0.38	0.25	0.56	0.88	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.28	0.16	0.31	0.38	0.78	0.53	
突発性発疹	0.22	0.59	0.53	0.31	0.31	0.59	
百日咳	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0.03	0	0.03	0	0	0.03	
ヘルパンギーナ	0.16	0.25	0.31	0.53	0.53	0.97	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.66	0.91	0.31	0.53	0.84	0.66	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	0.57	0.29	0.86	0.57	0.14	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	

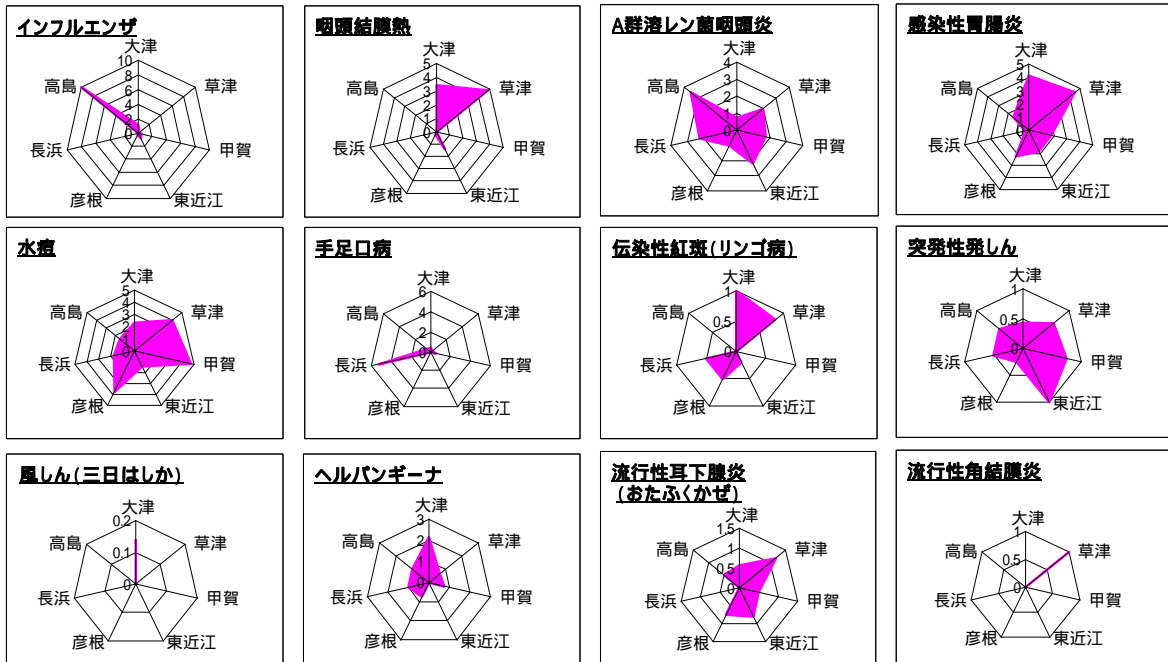
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第23週, 6/5~6/11)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0.71	1.18	0.20	0.43	0.75	0.29	0	10.00	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	1.91	3.43	4.83	0	1.40	0.25	0	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.72	0.71	2.00	1.75	2.20	1.00	2.25	3.50	
感染性胃腸炎	2.66	4.14	4.50	1.75	1.80	2.25	0.25	1.50	
水痘	2.84	2.29	4.00	4.75	1.40	3.75	1.75	1.50	
手足口病	0.88	0.43	0.17	0.50	0	0	5.25	0.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.53	1.00	0.83	0	0.20	0.50	0.50	0	
突発性発しん	0.59	0.43	0.67	0.75	1.00	0.25	0.50	0.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0.03	0.14	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.97	2.14	0.67	0.75	0	0.75	1.00	1.00	
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.66	0.57	1.17	0.50	0.80	0.75	0	0.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	1.00	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

緑色は定点当たり患者数が先週より増加、赤色は定点当たり患者数が非常に多い状態

0 1 2 3
定点当たり患者数(人)

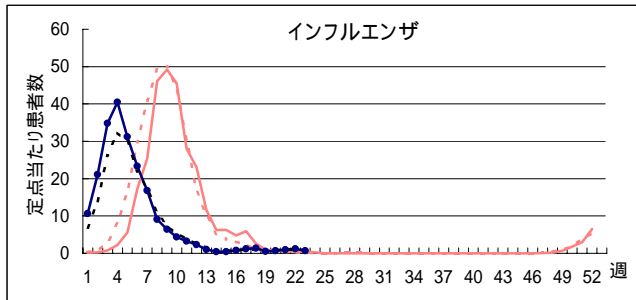
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



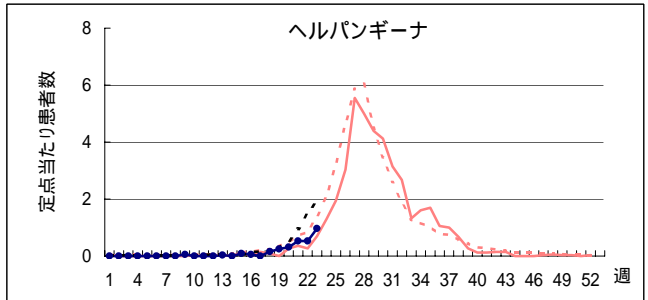
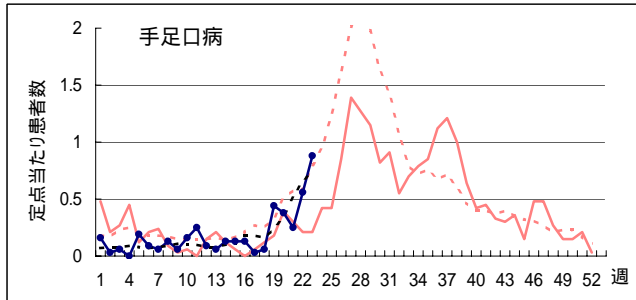
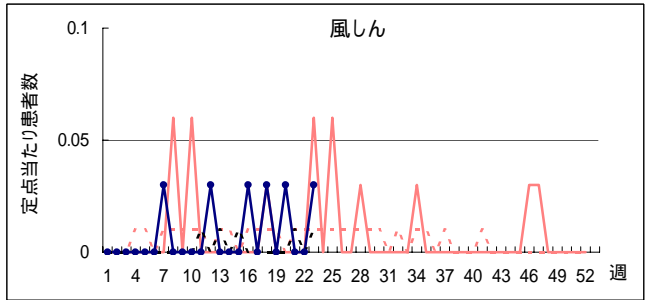
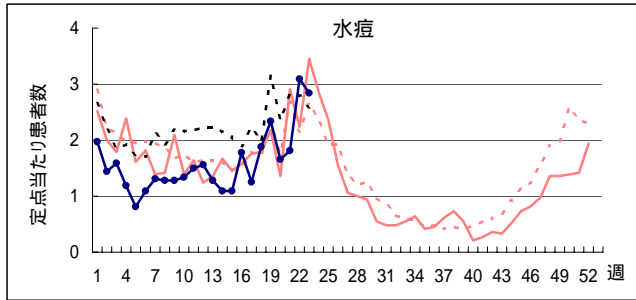
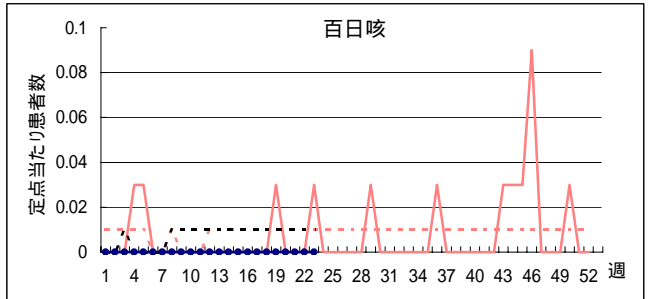
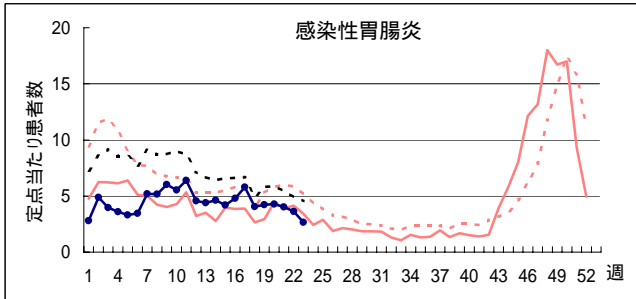
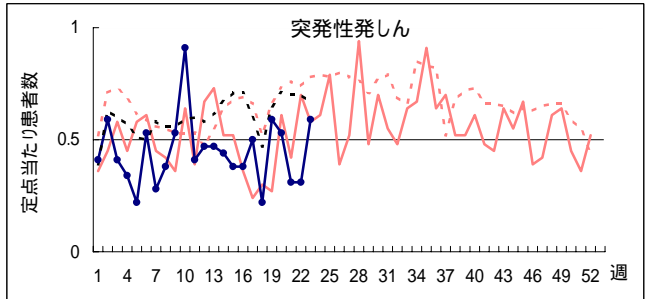
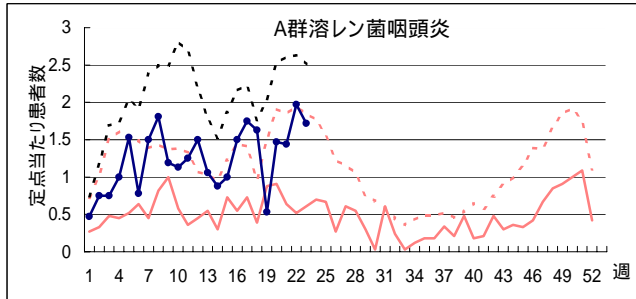
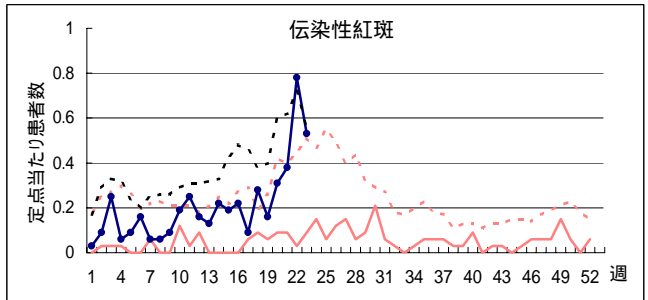
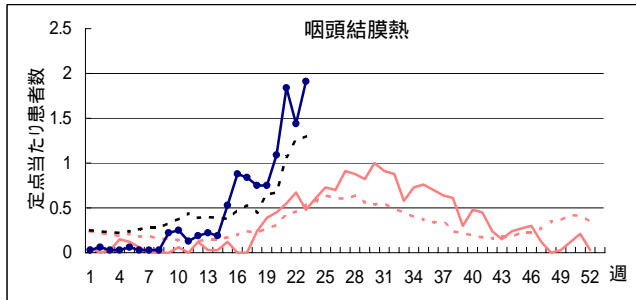
今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

- インフルエンザ-----県全体としては先週より減少していますが、高島では先週よりさらに増加し定点当たり患者数は10.00となっています。
- 咽頭結膜熱-----大津、草津および東近江で先週より増加しています。特に、草津で急増し定点当たり患者数は4.83となっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎-----県全体としては先週より減少していますが、大津、草津および高島で先週より多くなっています。
- 感染性胃腸炎-----甲賀および彦根で先週よりやや多くなっていますが、県全体としては先週より減少しています。
- 水痘-----彦根で先週よりかなり多くなっています。また、大津および草津でも先週より増加し、引き続き多い状態となっています。
- 手足口病-----長浜で先週よりさらに増加し、定点当たり患者数は5.25と非常に多くなっています。
- 伝染性紅斑-----先週多かった東近江ではかなり減少しています。
- 突発性発しん-----先週とほぼ同様の発生状況です。
- 風しん-----大津から報告されています。
- ヘルパンギーナ-----東近江以外で先週より多くなっています。
- 流行性耳下腺炎-----先週多かった東近江ではかなり減少しています。
- 流行性角結膜炎-----草津から報告されています。

疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第23週、H18.1.2～H18.6.11)



H17 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H18 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第23週、H18.1.2～H18.6.11)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●
全国 - - - - -

